

木曾岬町複合型施設

平成 26 年 6 月

基本設計概要書

< 目次 >

01	基本方針・計画概要
02	配置計画概要
03	平面計画概要
04	断面計画概要
05	外装計画概要
06	内装計画概要
07	防災計画概要
08	環境計画概要
09	配置図
10	1 階平面図
11	2 階平面図
12	3・4 階平面図
13	断面図

町を『まもり』、人を『つなぐ』 ～木曾岬らしさを未来につなげる施設づくり～

輪中として広く知られる木曾岬町は、古くから自然の厳しさと向き合い、共に生きるための知恵を培ってきました。木曾岬の輪中は「人々が手と手をつないで集落をまもる」という美しい理念が集落の形となって具象化されています。私たちは、その理念こそ「木曾岬らしさ」と考え、新たににつくれる木曾岬複合施設にも、その理念や歴史、風土を継承し、輪中のように「町を『まもり』、人を『つなぐ』」施設づくりを目指していきます。

基本方針

①町の「中心施設」として

私たちは「機能的」で「災害」に強く、新たな「交流」を生む施設づくりを目指し、施設の交流空間を「木曾岬ステーション」と名付けて新たな木曾岬町の「核」とします。

1 施設をつなぎ機能を高める「木曾岬ステーション」

- ・新施設は機能ごとに行政棟と教育文化棟に分類化
- ・それらと既存棟をつなぎ、様々な機能をまとめる木曾岬ステーションを整備



2 歴史をつなぎ命を守る「木曾岬ステーション」

- ・石垣による歴史の継承
- ・津波に対する避難所として屋上デッキを整備



3 広場をつなぎ交流を育む「木曾岬ステーション」

- ・町や施設をつなぐ仕掛けとして、3つの広場を設定
- ・それらをつなぐ屋内外一体となる「場」の創出



②町の「防災施設」として

- ・津波や高潮から町の防災拠点である行政施設、避難所施設（町民ホール）を守るため、1階を地盤面から1m上げ、さらに2階までの階高を6mとすることで、2階床レベルを海拔TP+5.30に設定し、津波想定高さTP+3.52よりも高い位置に計画します。
- ・助命壇（屋外テラス）を建物外部に配し、且つ助命壇から建物屋上にスムーズに避難ができる経路を確保することで、津波発生時等の緊急時に安全により多くの町民が避難できる計画を行います。
- ・地震直後から災害対策を行う必要がある行政機関については、建物構造に中間免震を採用し、災害時の防災対策機能維持に配慮します。

③町の「行政施設」として

- ・各階ともに窓口を連続して設置し、柱が無くフロア全体が見渡しの良い、町民にとって利用しやすい行政施設を計画します。
- ・1階に執務室（会計課）を設け、利便性に配慮します。
- ・1階に総合窓口を設け、迷うことなく施設が利用できる「ワンストップサービス」の実現を目指します。
- ・議場をはじめとする議会機能は現況のものをできるだけ活かして使用する計画とします。

木曾岬町複合施設基本設計



【南側道路からの外観イメージ】

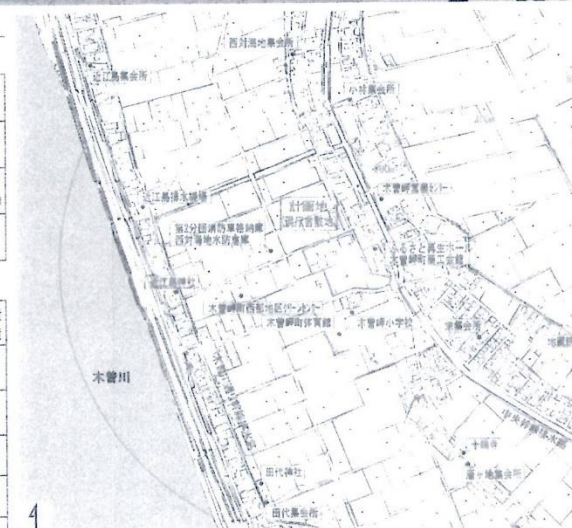
計画概要

①敷地概要

敷地位置	三重県桑名郡木曾岬町大字西対岸地 251 番地	防火地域の指定	指定なし (建築基準法 22 条地域)
用途地域	都市計画区域内 第二種住居地域	その他の地区・地域の指定	指定なし
許容建蔽率	60%	日影規制	3 時間 - 5 時間 (測定 4m) (三重県建築基準法施行細則)
許容容積率	200%	敷地面積	12,590.50 m ² (予定)

②建物概要

施設名称	木曾岬町複合施設	構造	行政棟 (中間免震)	1 階 RC 造 2-4 階 PC 造
用途	庁舎・集会所		木曾岬7-737 (耐震)	RC 造
工事種別	敷地単位：増築 建築単位：増築 (現福祉教育センターに 同一棟増築)		教育文化棟 (耐震)	RC 造
階数	地上 4 階 / 塔屋 1 階 設計 GL+25.00m	建築面積	3,270 m ²	新築 2,183 m ² 既設 1,087 m ²
耐火性能	耐火建築物	延床面積	6,395 m ²	新築 4,442 m ² 既設 1,953 m ²
		駐車場	124 台 (公用車格納庫 15 台別)	

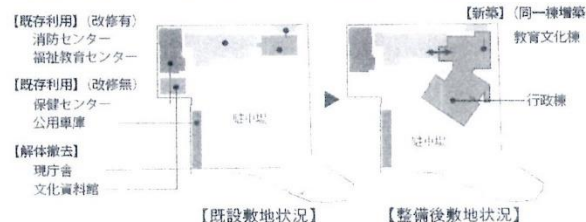


【敷地周辺図】S=1/10,000

基本方針

① 既設建物を活かす計画

- 敷地内にある既設建物を撤去解体せずに活かす計画とします。
- 既設福祉教育センターは既存改修とし、新築建物を内部で接続することで、同一棟増築を行います。
- 渡り廊下で別棟として整備するのではなく、内部接続し、既設と新設を一体的に整備することで、より利用しやすく、管理しやすい建物とします。



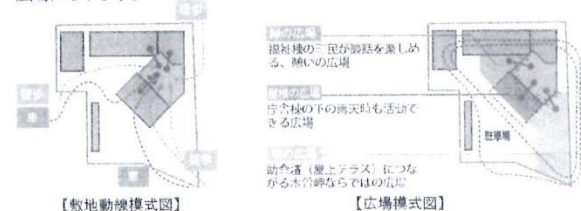
② 機能ごとに分棟化し、管理運営に配慮した計画

- 本計画は「行政機能」「集会所機能」「図書室機能」「議会機能」「町民活動機能」が一つの建物の中に集まった複合施設です。それぞれの機能に配慮して、分棟化することで、管理運営に配慮した計画とします。

	行政棟	木曾岬 ST	教育文化棟	福祉棟
4F	防災			
3F	行政			
2F	行政		集会所	議会
1F	行政	町民ロビー	図書室	町民活動

③ 木曾岬ステーションを中心としたわかりやすい配置計画

- 町の中心施設として、施設の交流施設を「木曾岬ステーション」として位置づけ、施設に訪れる方々の動線を集約します。
- 木曾岬ステーションは開放的なつくりとし、3つの広場をつなげ、町の「大きな広場」として町民の交流を育みます。駐車場を利用すれば敷地の大半が広場になります。



④ 古の知恵から学ぶ、避難場所としての『助命壇』

- 輪中の集落には、水害の際に誰でも避難できる「助命壇」と呼ばれる場所がありました。これに学び、木曾岬ステーションの上階の屋上デッキに津波・高潮時の避難所としての新たな助命壇をつくります。
- 助命壇からは連続的に屋上に避難することが可能です。



敷地・既設建物を最大限に活かす配置計画

① 行政棟を真南に向けて配置

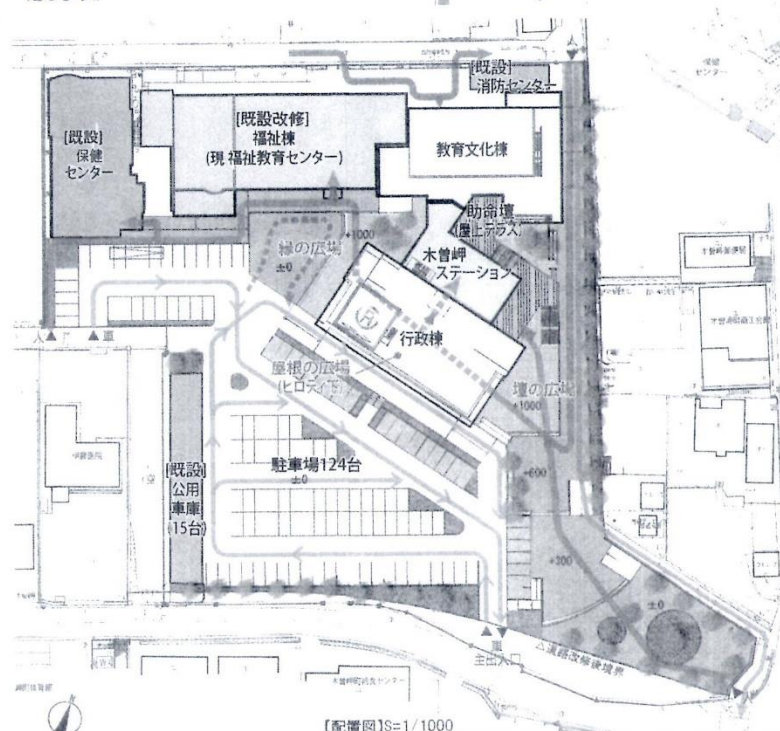
- 行政棟を真南に向けて配置することにより、以下の効果を図ります。
 - A. 日影の影響を最小限に抑えながら、駐車場・広場を最大限に確保した計画。
 - B. 既設建物（福祉棟・保健センター）が裏にならない計画。
 - C. 行政棟の環境負荷低減。
 - D. 建物全体をコンパクトに抑える計画。

② 建物の日影に配慮しながら、敷地全体を活かす配置計画

- 建築基準法の日影規制を遵守しながら、高層となる行政棟をできるだけ北東に配置し、敷地全体を有効に活用できる計画とします。

③ 工期の異なる工事工程に配慮した計画

- 行政棟、木曾岬ステーションを建設する第1期工事の間は既設庁舎を利用するため、既設庁舎を利用される町民の方々の安全に配慮して、工事区分は既設庁舎と十分な離隔距離をとって設定します。



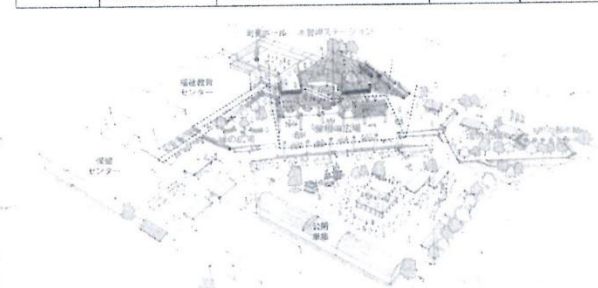
【配置図】S=1/1000

町の大きな広場としての外構計画

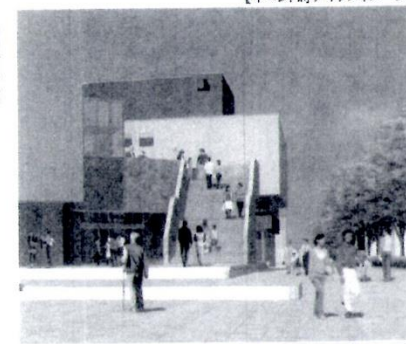
① 様々な使い方に対応する広場

- 大きく広い1つの広場を設けるのではなく、訪れる町民の方々が使いやすいスケールの3つの広場を計画します。
- それぞれが独立するのではなく、木曾岬ステーションや駐車場も含めれば、敷地全体が町の大きな広場として利用できる計画とします。
- イベント時には、敷地全体を使って賑わいのある場所を創出します。

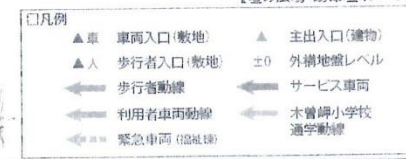
	位置付け	広場の使い方	特徴	外構舗装
壇の広場	助命壇に連続する木曾岬町民の広場	・小学生を始め、不特定多数の人たちが利用できる場所 ・祭りなどの地域の行事開催場所	石垣のある広場	タイル インターロッキング
屋根の広場	南に開けずに活動できる広場	・車（徒歩バス）の待合所 ・災害時の置き出しの場所	行政棟のビロテ下 の広場	タイル インターロッキング
緑の広場	町民が気軽に利用できる憩いの広場	・施設に訪れた人の屋外活動スペース ・屋外活動スペース（ラジオ体操等）	施設スペースが点在する 広場	タイル インターロッキング



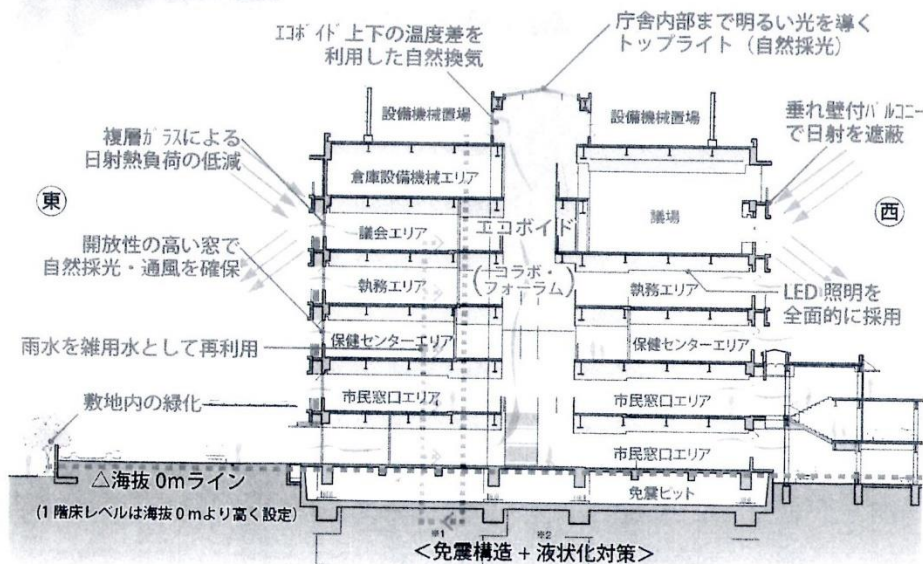
【イベント時アイソメーキング】



【壇の広場・助命壇イメージ】



環境配慮の取り組み



※1 免震装置で地震の揺れを吸収することにより建物への地震の揺れを軽減します。
 ※2 砂杭を深さ13mまで約2,100本施工することで地盤を押し固め、液状化を防止します。

弥富市新庁舎建設基本設計(案)についてご意見を募集します

募集期間 11月16日(金)から12月17日(月)まで

基本設計(案) 閲覧場所 総務課(市役所2階)、十四山支所、鍋田支所、図書館
 (閉庁日と休館日を除く)
 ※ホームページでもご覧になれます。

提出方法 郵送、FAX、Eメールか直接窓口へお持ちください。

提出内容 任意の様式に、①住所②氏名③電話番号④件名⑤ご意見を記入してください。
 ※市外にお住まいの方は、弥富市で在学・在勤している学校・会社名を併せて明記してください。

提出先 〒498-8501(住所不要) 弥富市役所 総務課 庁舎整備グループ
 FAX 0567-67-4011 Eメール chosha@city.yatomi.lg.jp

その他 個別の回答は行いませんが、いただいたご意見の概要とそれに対する考え方は、個人情報を除いて公表します。

お問い合わせ先 市役所 総務課 庁舎整備グループ 電話 0567-65-1111(内線232)
 FAX 0567-67-4011 Eメール chosha@city.yatomi.lg.jp

「安心・安全・便利 市民に愛され、市民が誇れる庁舎づくり」 弥富市新庁舎建設基本設計(案)がまとまりました

新庁舎建設基本設計(案)の内容を市民の皆さんにお知らせします。



庁舎外観イメージ(南東側から)

建替える必要性

現在の庁舎は、昭和41年に新築(昭和60年に一部増築)されたもので、築46年が経過しています。そのため、耐震性に問題があり、耐震補強工事を行っても耐用年数の長期延伸は望めないことや、給排水や冷暖房などの設備の老朽化が著しく、建物・設備の補修及び改修に毎年多くの費用が必要となっています。

また、エレベーターやスロープなどバリアフリーへの対応不足、行政需要が増大したことにより、よりよい行政サービスの提供や効率的な業務の推進が困難となっていることから、現在の庁舎の建て替えを計画しています。

新庁舎建設の構想

1 『強い』庁舎

地震に備えた耐震性、津波対策や地盤の液状化対策をし、本市の防災拠点となる安心・安全な庁舎とします。

2 『やさしい』庁舎

わかりやすく、使いやすく、さらに子どもから高齢者まで、誰にでもやさしい庁舎とします。

3 『開かれた』庁舎

市民主体の地域活動の拠点として利用できるスペースや市民ギャラリーを確保するなど、市民が気楽に立ち寄り、交流を育む庁舎とします。

4 『親しみのある』庁舎

庁舎デザインの工夫・展示・情報発信スペースの確保などにより、弥富の魅力をアピールすることのできる庁舎とします。また、省エネルギー・地球環境問題に対応した環境にやさしい庁舎とします。

事業計画

建設場所は、現在の庁舎を取り壊して新庁舎を建設する計画です。

- 新庁舎 6階(鉄骨鉄筋コンクリート造) 延床面積約11,000㎡(免震構造)
- 立体駐車場 2層3段(鉄骨造) 延床面積約3,000㎡
- 公用車庫(2階)・倉庫(平屋)・渡り廊下・駐輪場 延床面積約600㎡
- 概算事業費 4.4億4千万円(液状化対策・外構工事を含む)

4F

弥富市庁舎改築等検討委員会委員名簿

(平成24年3月2日～)

No.	職 名	氏 名	備 考
1	委 員 長	細 江 利 夫	商工会長
2	委 員 代 理 長 者	八 木 輝 美	社会福祉協議会長
3	委 員	佐 藤 高 清	市議会議長
4	委 員	服 部 正 美	区長会長
5	委 員	鈴 木 み ど り	女性の会会長
6	委 員	福 田 朝 子	民生・児童委員会会長
7	委 員	舘 肇	福寿会連合会長
8	委 員	早 川 幹 雄	十四山地区区長
9	委 員	東 嶋 と も 子	公募
10	委 員	加 藤 克 之	公募